

第25回 広島公演

7月18日(金)

18:00開場 / 18:30開演

WAKOゲバントホール

第26回 岡山公演

7月19日(土)

13:00開場 / 13:30開演

能楽堂ホールtenjin9

第27回 神戸公演

7月19日(土)

17:30開場 / 18:00開演

神戸新開地・喜楽館

Relays Three Amigos

中国地方初!!

三遊亭白鳥 落語 伝道師

新作落語の首領!

三遊亭白鳥

新作古典の二刀流!

林家彦いち

古典落語の伝承頭!

桃月庵白酒

三遊亭白鳥

林家彦いち

桃月庵白酒

三人の落語伝道師を聴かずに落語は語れない!

各回とも 前売券:4,000円 当日券:4,500円

*全席自由/税込/未就学児入場不可

2025年
4月4日(金)
チケット発売

詳細は裏面
をご覧ください→

Check!

第25回

広島公演

7月18日(金) 18:00開場 / 18:30開演

WAKOゲバントホール 広島県広島市中区本川町2-1-13 和光パレス21 5F TEL.082-503-1711

●RAKU・GO・LABO ひろしま【優待料金あり】(右記QRコード) ●エディオン広島本店(東館9F) プレイガイド(窓口販売のみ)
主催:RAKU・GO・LABO ひろしま / デジタルエコー / キョードーファクトリー 企画・制作:落語三銃師実行委員会 後援:中国新聞社、中国放送



第26回

岡山公演

7月19日(土) 13:00開場 / 13:30開演

能楽堂ホールtenjin9 岡山県岡山市北区天神町9-24 TEL.086-221-1155

●岡山シンフォニーホールチケットセンター TEL.086-234-2010(10:00 ~ 18:00 / 休館日を除く)
●岡山芸術創造劇場ボックスオフィス TEL.086-201-2200(10:00 ~ 18:00 / 休館日を除く) (右記QRコード)
●ぎんざやプレイガイド TEL.086-222-3244(10:00 ~ 18:30 / 窓口販売のみ)
主催:デジタルエコー / キョードーファクトリー 協力:RAKU・GO・LABO ひろしま 企画・制作:落語三銃師実行委員会



第27回

神戸公演

7月19日(土) 17:30開場 / 18:00開演

神戸新開地・喜楽館 神戸市兵庫区新開地2-4-13 TEL.078-335-7088

●喜楽館【チケット窓口】 営業時間11:00 ~ 17:00 ※夜間開演時は、開演時間まで
主催:デジタルエコー / キョードーファクトリー 協力:RAKU・GO・LABO ひろしま 企画・制作:落語三銃師実行委員会

2025年
4月4日(金)
チケット発売

各回とも 前売券:4,000円 当日券:4,500円 ※全席自由 / 税込 / 未就学児入場不可
キョードーファクトリーチケットセンター
TEL.0570-025-500 オペレーター受付時間10:00~18:00
●チケットぴあ ●ローソンチケット ●e+ (イープラス)



三銃師

Rakugo Three Amigos

林家彦いち

Hayashiya Hikoichi

四角い顔の戦師・時空を超えた冒険噺・新作古典の二刀流!
昭和44年7月3日 鹿児島県生まれ
前座の頃から新作落語を創り始め、応用落語、落語ジャンクションなど新作落語の会に参加。同時に古典落語の会も定期的に主催。都内をはじめ各都市や地方での独演会も多数開催されて人気を博す。
多趣味、アウトドア派の落語家らしく、マクラでは実生活のエピソードを交え爆笑を誘いながらも、ずりりと江戸から未来へと旅立つ噺が病みつきになる。

三遊亭白鳥

Sanyutei Hakucho

大きな羽の戦師・気ままに羽ばたく自由噺・新作落語の首領!
昭和38年5月21日新潟県生まれ
独特の古典落語からオリジナルの新作落語まで幅広く活動する。新作落語は200席を超え、現代のストーリーテラーと言われている。また、女流落語家の育成にも力を注ぎ、女性目線の落語も創作する。白鳥の落語はうっかり聴いているだけでは終われない参加型落語も数多く、生だからその落語の楽しみを衝撃的に植え付ける。近年は白鳥作品を寄席で口演する落語家も増えている。

桃月庵白酒

Togetsuan Hakusyu

輝く美声の戦師・気品漂う毒舌噺・古典落語の伝承頭!
昭和43年12月26日 鹿児島県生まれ
古典落語の名手として名高い当代きっての売れっ子噺家の一人。年間高座回数は他を大きく引き離し、超の付く多さが人気の高さを物語る。
艶めく美声で女将さんも小僧も訛の強い奉公人まで想像を掻き立て笑いへと引き込む。その実力は「落語の世界へ沼る一歩は白酒から!」の声も多く、寄席のトリや地方公演も引くてあまたの毎日だ。

